

学位論文要旨

中国語を母語とする日本語学習者の日本語漢字単語の 処理過程の変容

—中日 2 言語間の形態・音韻類似性を操作した
単語シャドーイングの効果—

広島大学大学院 教育学研究科

教育学習科学専攻 日本語教育学分野

張 文 青

I 論文題目

中国語を母語とする日本語学習者の日本語漢字単語の処理過程の変容
—中日 2 言語間の形態・音韻類似性を操作した単語シャドーイングの効果—

II 論文構成（目次）

第 1 章 問題と目的

第 1 節 はじめに

第 2 節 心内辞書モデル及び単語認知過程

第 3 節 中国語と日本語の漢字単語の認知過程に関する研究

第 4 節 問題の所在と本研究の目的

第 2 章 実験的検討

第 1 節 日本語漢字単語の処理に及ぼす中日の形態類似性及び音韻類似性の効果 (1)
—日本留学中の中国人初中級学習者を対象とした検討— (実験 1)

第 2 節 日本語漢字単語の処理に及ぼす中日の形態類似性及び音韻類似性の効果 (2)
—日本留学中の中国人中級学習者を対象とした検討— (実験 2)

第 3 節 日本語漢字単語の処理に及ぼす中日の形態類似性及び音韻類似性の効果 (3)
—日本留学中の中国人上級学習者を対象とした検討— (実験 3)

第 3 章 総合考察

第 1 節 単語シャドーイングによる中国人学習者の日本語漢字単語処理過程の変容

第 2 節 本研究の意義と教育的示唆

第 3 節 今後の課題

引用文献

資 料

謝 辞

Ⅲ 論文要旨

第1章 問題と目的

第1節 はじめに

中国語を母語 (native language: first language と同義とし, 以下 L1) とする日本語学習者 (以下, 中国人学習者) は, 第二言語 (second language: 以下 L2) である日本語の漢字単語学習において, L1 の影響を受ける可能性が高い。費・松見 (2012), 費 (2013) は, 中国人上級学習者が聴覚呈示された日本語漢字単語の語彙判断を行う時, 中国語と日本語 (以下, 中日) で音韻類似性の高い単語が低い単語より意味アクセスへの反応時間が長くなる現象を, すなわち音韻類似性による抑制効果を見出した。本研究では, 知覚練習法の一つである単語シャドーイング法 (continuous word shadowing : 以下, 単語シャドーイング¹) を用いて, 漢字単語の形態・音韻情報を一体化させて覚える練習を行うことにより, このような中国語音による負の影響が減衰し, 日本語漢字単語の形態・音韻表象の連結関係及び処理経路が変容する可能性を検討した。

第2節 心内辞書モデル及び単語認知過程

1. 心内辞書モデル

認知心理学では, 長期記憶に大量に蓄積・表現されている語彙情報の集合体のことを心内辞書 (mental lexicon) と呼んでいる (松見, 2006)。心内辞書内では, 表層的な語彙情報 (語彙表象 : lexicon representation) とより深層的な意味情報 (概念表象 : conceptual representation) が表象化されている。語彙表象は, さらに形態表象 (orthographical representation) と音韻表象 (phonological representation) に分けられる。

2. 第二言語の単語認知に関する研究と改訂階層モデル

記憶表象研究における代表的な考えとして, Potter, So, Von Eckardt, & Feldman (1984) による階層モデル (revised hierarchical model) がある。Potter et al. (1984) は, 単語の翻訳過程における語彙表象と概念表象の連結関係に基づき, 心内辞書の構造において単語の形態や音韻の情報は L1 と L2 の間で分離・独立している一方, 意味情報 (概念表象) は 2 言語で共有されていると仮定し, 単語の処理過程について検討した。そして, 語彙表象と概念表象の連結関係について, 単語連結仮説 (word association hypothesis) と概念媒介仮説 (concept mediation hypothesis) を提唱した。Kroll & Stewart (1994) は, 単語の処理

¹ 単語シャドーイングは, 中日間で音韻類似性の高い漢字 1 文字をコアとして共通にもち, 同形類義語 (翻訳同義語) の二字熟語を 5 語選び 1 セットとし (例コア文字「開」: 「開発, 開始, 開幕, 開設, 開業」), この 1 セット 5 語を 5 回, 延べ 25 語を各回ともランダムに選択し, 約 25 秒の間に流れるように再生するプログラムを組んで, 日本語漢字単語音を練習する方法である。

過程及び心内辞書の構造を精緻化した改訂階層モデル (revised hierarchical model) を提案し、L2 の語彙表象と概念表象の連結関係は、L2 の習熟度が高くなるにつれてその形成が進み、連結強度も強くなることを想定した。

3. 印欧語族の単語認知過程に関する研究

バイリンガル研究及び L2 学習者の単語認知に関する研究は、主に表音文字を有する印欧語族の言語話者を対象としている。L2 の語彙処理に 2 言語間の形態と音韻の類似性がどのような影響を及ぼすかについて研究が積み重ねられている。先行研究で明らかになったことをまとめると、以下の 4 点になる。

- (1) 視覚的処理において、形態類似性の高い単語は低い単語より反応時間が短い、音韻類似性の高い単語は低い単語より反応時間が長い。形態類似性による促進効果と音韻類似性による抑制効果が検証された (e.g., Dijkstra, Grainger, & Van Heuven, 1999)。
- (2) 視覚的処理において、形態類似性が高い単語は低い単語より反応時間が長く、形態類似性による抑制効果が検証されたという報告もある (Sunderman & Kroll, 2006)。
- (3) 聴覚的処理において、音韻類似性の高い単語は低い単語より反応時間が短く、音韻類似性による促進効果が検証された (e.g., Boukrina & Marian, 2006)。
- (4) 聴覚呈示の視線追跡課題において、音韻類似性の高い単語は低い単語より反応時間が長く、2 言語間の音韻類似性が抑制効果をもたらすという実験報告もある (e.g., Marian & Spivey, 2003)。

第 3 節 中国語と日本語の漢字単語の認知過程に関する研究

日本語教育学の分野では、中国人学習者を対象とした日本語漢字単語の処理過程に関する研究が多く行われている。その結果についてまとめると、以下の 7 点になる。

- (1) 改訂階層モデルを単語処理の理論的枠組みとし、中国人学習者を対象に、印欧語族の言語研究で 1 つの表象と捉えられていた語彙表象を、形態表象と音韻表象に分け、中国人学習者の心内辞書モデルを考案した (松見他, 2012)。
- (2) 中日 2 言語間の形態類似性の高い単語は、2 言語間で形態表象を共有しているが、形態類似性の低い単語は分離・独立して貯蔵されている (蔡・松見, 2009)。
- (3) 中日 2 言語の音韻表象は、2 言語間で分離・独立して形成されている (松見他, 2012)。
- (4) 視覚呈示と聴覚呈示では、感覚モダリティが異なり、心内辞書における日本語漢字単語の処理経路が異なる (e.g., 費・松見, 2012; 費, 2013; 蔡他, 2011; 松見他, 2012)。
- (5) 視覚呈示では、中日 2 言語の漢字単語の形態・音韻類似性の高い単語は意味アクセスに促進の効果を及ぼす (e.g., 蔡他, 2011; 松見他, 2012)。
- (6) 聴覚呈示により音韻類似性の高い単語において、中国語の音韻表象の活性化は意味アクセスへの干渉をもたらし、音韻類似性による抑制効果が検証された (費・松見, 2012; 費, 2013)。

- (7) 日本語の習熟度が上がるにつれて、形態・音韻表象の形成度や表象間の連結強度の変容がみられる (e.g., 蔡・松見, 2009 ; 蔡他, 2011 ; 松見他, 2012)。

第4節 問題の所在と本研究の目的

1. 本研究の目的

単語の聴覚呈示において、中日 2 言語間の音韻類似性は意味アクセスへの抑制効果を生み、上級学習者になっても中日 2 言語間の音韻類似性の高い漢字単語は中国語音との連結が強く、日本語音との連結が弱い。すなわち、中国語の音韻情報による負の影響を受けやすい (e.g., 費・松見, 2012 ; 費, 2013)。このような負の影響を軽減するために、先行研究では複数の提案がなされたが (e.g., 費・松見, 2012 ; 松見, 2002 ; 松見・蔡, 2008), 実践を行った研究は管見の限り見当たらない。そのことをふまえ、本研究では以下の 2 つの研究課題を設定した。

【研究課題 1】

単語シャドーイングを一定期間、日本語漢字単語の学習に取り入れ、形態・音韻類似性を操作し、中国人初中級、中級、上級学習者を対象に、聴覚呈示による語彙判断課題及び視覚呈示による読み上げ課題を実施する。課題遂行に要する平均正反応時間を主な測度とし、聴覚呈示による漢字単語の処理時間及び視覚呈示による読み上げ課題の反応時間の短縮がみられるか否かを検討する。そのことを通して、形態・音韻表象の連結強度の変容を検討する。そして中国人学習者における聴覚呈示時の意味処理の促進原因を明らかにする。

【研究課題 2】

単語シャドーイングにより、漢字単語の各表象の活性化が意味アクセスにどのような影響を及ぼすのかについて、単語シャドーイング前・後の意味処理経路の特徴を表す処理パターンの変容をみることによって検討する。特に、中級、上級学習者を対象とした個人ベースの量的・質的分析を行い、聴覚呈示時の反応時間の変化と処理過程との関係を明確にする。

2. 単語シャドーイングの有用性

シャドーイングは、学習者の注意力を高めるとともに L1 話者の発音に注意を払いながら、聞こえてくる発音を即座に口頭再生するオンライン処理課題である (門田, 2007)。シャドーイングで繰り返し発音を知覚する際、同じ音声の知覚と音韻・意味処理が促進され、音韻ループでの処理・貯蔵の効率が向上し、認知負荷が次第に軽減され、音声知覚及び音声リハーサルの自動化が達成できる (門田, 2007)。本研究では、そのような特長をもつシャドーイングを、文や文章ではなく単語 (漢字単語) を材料として導入する (方法については注 1 を参照のこと)。

第2章 実験的検討

第1節 日本語漢字単語の処理に及ぼす中日の形態類似性及び音韻類似性の効果 (1)

－日本留学中の中国人初中級学習者を対象とした検討－ (実験1)

1. 語彙判断課題を用いた聴覚的処理に関する検討 (実験1-a)

日本留学中の初中級日本語学習者が、単語シャドーイングを通じて、漢字単語の日本語音の記憶痕跡を豊かにし、心内辞書における音韻表象と概念表象の間の連結強度を増大させることにより、意味アクセスへの反応時間の変化や処理経路の変容がみられるか否かを検討した。また、単語シャドーイングの前・後において反応時間の短縮がみられる場合の原因を考察した。

実験の結果、事前テストでは、形態・音韻類似性による主効果及び交互作用のいずれも有意な差がみられず、中国人初級学習者の心内辞書においては、日本語の語彙表象自体が未発達の可能性が高いことが推察された。事後テストでは、音韻類似性の抑制効果の傾向がみられた。練習後、中国人初中級学習者の日本語漢字単語の処理過程は一時的に上級学習者と同じような処理経路へと変容したことが窺える。遅延テストの反応時間は事後テストよりさらに短縮され、中日2言語間の形態類似性は意味アクセスへの促進原因であることが示唆された。

2. 読み上げ課題を用いた視覚的処理に関する検討 (実験1-b)

単語シャドーイング後、形態・音韻表象間の連結強度が増すことにより、反応時間の変化がみられる否か、また、日本語音出力時の処理経路の変容がみられるか否かを検討した。

実験の結果、事前テストでは、形態類似性による抑制効果と音韻類似性による促進効果が検証された。事後テストでは、形態・音韻類似性による主効果は有意ではなかった。遅延テストでは、音韻類似性の高い単語は低い単語より反応時間が短く、音韻類似性による促進効果がみられた。単語シャドーイングを通して、初中級学習者の日本語音を出力する際の処理過程が中級学習者の処理過程のように変容し、日本語の語彙表象の形成が促進されたことが推察できる。

3. 日本語漢字単語音の出力に関する検討 (実験1-c)

単語シャドーイング後、日本語漢字単語の形態・音韻表象の連結が強められたか否か、及び日本語の発音が改善したかどうかについて、日本語の発音の質的变化を通して確認するとともに、日本語漢字単語を読み上げる際の誤答率が高い原因を探り、学習方法の提言を行った。

実験の結果、事前テストでは、形態類似性が高い単語及び音韻類似性の高い単語は低い単語より誤答率が高い傾向にあることが示された。また、形態・音韻類似性の交互作用が有意であった。誤答単語の発音は、実際に中国語に近い発音で読まれていることがわかった。事

後・遅延テストでは、日本語漢字単語の形態・音韻表象の連結強度が強まり、日本語の音韻表象の形成度の向上により、日本語音（長音、促音、濁音、半濁音、アクセント）として不適切音が減少し、発音の正確さの向上がみられた。実験結果に基づき、中国人初中級学習者には、中日 2 言語間の音韻類似性の高い漢字単語（例：関係、財布）について、日本語音の繰り返し強化練習が必要であることを提言した。

第 2 節 日本語漢字単語の処理に及ぼす中日の形態類似性及び音韻類似性の効果 (2)

－日本留学中の中国人中級学習者を対象とした検討－ (実験 2)

1. 語彙判断課題を用いた聴覚的処理に関する検討 (実験 2-a)

中国人中級学習者を対象とし、単語シャドーイングを通して、日本語漢字単語の意味アクセスへの反応時間の短縮がみられるか否かを検討し、漢字単語の形態・音韻表象の連結強度と処理過程の変容があるか否かを検証した。また、実験参加者個人ベースの事前・事後テストの反応時間を比較し、聴覚呈示時の意味処理の促進原因を明らかにした。

実験の結果、事前テストでは、形態・音韻類似性の主効果、及び交互作用のいずれも有意ではなかった。中級学習者では、L2 の語彙表象の発達度が低く、中日 2 言語間の語彙表象と概念表象間の直接的な連結が十分に形成されていない可能性が高い。事後テストでは、形態類似性による抑制効果がみられた。練習を通して形態類似性の高い日本語漢字単語の知識が増え、日本語の語彙表象における形態・音韻表象の連結が弱いながらも形成されつつあることが窺える。遅延テストは事後テストに比べ、各条件における反応時間の短縮がみられ、単語シャドーイングの持続的効果が検証された。また、個人ベースの事前・事後テストの反応時間を分析した結果、中日 2 言語間の形態類似性は、聴覚呈示における意味処理の促進原因であることが明らかとなった。

2. 読み上げ課題を用いた視覚的処理に関する検討 (実験 2-b)

同形類義語 500 語と同形異義語、異形異義語 200 語、計 700 語を用いて単語シャドーイングを導入し、その後、日本語漢字単語の形態表象と音韻表象間の連結の度合が強化されたか否か、日本語音出力時の反応時間の変化と日本語漢字単語の日本語音を出力時の処理経路の変容がみられるか否かを検討した。

実験の結果、事前テストでは、形態・音韻類似性による効果は促進的にも競合的にもみられなかったが、両要因の交互作用の効果量が大きいことが示された。事後・遅延テストでは、漢字単語に関する知識や処理経験量が増えたことにより、各条件における反応時間の短縮がみられたが、形態・音韻類似性による主効果及び交互作用はいずれも有意ではなかった。単語シャドーイングの練習を通して、日本語漢字単語の形態・音韻表象の活性化が高まり、中日 2 言語間の形態・音韻表象の活性化が同程度になったことによって、形態・音韻類似性による効果が観察されなかったと推測される。

3. 日本語漢字単語音の出力に関する検討（実験 2-c）

単語シャドーイングの練習後、日本語の発音の質的改善がみられるか否かを通じて、日本語漢字単語の形態・音韻表象間の連結強度の変化を検証した。また、中国人中級学習者の誤答率が高い原因を探り、日本語漢字単語の学習方法について提言することを目的とした。

実験の結果、事前テストでは、形態類似性の高い単語の誤答率が有意に高かった。事後テストでは、各条件において誤答率が下がったことが示された。遅延テストでは、音韻類似性の低い単語の誤答率の減少が大きいことが示された。実験の結果から、日本語音韻表象の形成度が高まり、漢字単語の形態・音韻表象の連結強度も増したことが窺える。学習方法に対する提言として、学習者が内語発声する際に、日本語漢字単語を日本語音で黙読すること、特に形態・音韻類似性の高い単語（例：習慣、自由、注射、工場、工業、といった同形類義語）の日本語音の練習量を増やし、日本語音の音韻表象のさらなる形成と音韻情報の定着に努めることが導出された。

第 3 節 日本語漢字単語の処理に及ぼす中日の形態類似性及び音韻類似性の効果（3）

－日本留学中の中国人上級学習者を対象とした検討－（実験 3）

1. 語彙判断課題を用いた聴覚的処理に関する検討（実験 3-a）

中国人上級学習者を対象に、同形類義語 900 語を用いた単語シャドーイングの遂行により、日本語漢字単語の形態・音韻表象の連結関係が変容するか否かを検討した。また、実験参加者一人ひとりの事前・事後テストの反応時間を比較し、中国人上級学習者における、聴覚呈示時の意味処理の促進原因を明らかにした。

実験の結果、事前テストでは、形態・音韻類似性の主効果がみられなかった。事後テストでは、各条件における反応時間の短縮がみられ、処理パターンの変容もみられた。遅延テストでは、事後テストよりさらに反応時間の短縮がみられた。意味処理の促進原因を明らかにするため、実験参加者個人ベースの事前・事後テストの反応時間を分析した。その結果、中日 2 言語間の形態類似性が意味アクセスへの促進原因であることが推測された。

2. 読み上げ課題を用いた視覚的処理に関する検討（実験 3-b）

日本語漢字単語の音を出力する際の反応時間に短縮がみられるか否か、また、処理経路の変容がみられるか否かを検討した。

実験の結果、事前テストでは、形態類似性による抑制効果がみられた。事後テストでは、各条件における反応時間が短縮され、形態類似性による抑制効果がみられなくなり、音韻類似性による促進効果がみられた。遅延テストでは、処理経路の変容がみられ、形態類似性による促進効果がみられた。単語シャドーイングにより漢字単語の形態・音韻表象の連結関係が強化され、単語シャドーイングの持続的効果が検証されたといえる。

3. 日本語漢字単語音の出力に関する検討（実験 3-c）

単語シャドーイングの練習後、日本語の発音を「誤答」と評定される単語が減少し、1 分間自由スピーチの発話の際、発音の質と発話の流暢さの変化といった日本語音の質的改善がみられるかを通して、日本語漢字単語の形態・音韻表象の連結が強化されたか否かを検証した。

実験の結果、事後・遅延テストでは、日本語音としての不適切音が減少し、各条件における誤答率が下がったことが示された。しかし、事後・遅延テストの結果からは、学習経験が豊富で、日本語音の処理量が多い中国人上級学習者においても、中国語の形態・音韻情報の両方から負の影響を受け、形態・音韻類似性ともに高い単語の誤答率が高いことが示された。1 分間自由スピーチの評定結果では、事後・遅延テスト時に「日本語音の発音がよくなった、話すことに慣れてきた、話す際の流暢さ・スムーズさが事前より増した」という評価がなされた。しかし、学習期間が長い学習者ほど改善度が小さいことも示された。

第 3 章 総合考察

第 1 節 単語シャドーイングによる中国人学習者の日本語漢字単語処理過程の変容

1. 中国人初中級学習者の日本語漢字単語の形態・音韻表象の連結強度及び処理過程の変容

実験の結果、次の 4 点が明らかとなった。

- (1) 練習前、日本語の語彙表象自体が未発達で、L1 と L2 の間の語彙表象と概念表象の直接的な連結が形成されていない可能性が高いことが推察できる。
- (2) 語彙判断課題の事後テストの結果からは、聴覚呈示による意味アクセスの処理過程が一時的に中国人上級学習者と同様の処理過程へと変容したことが窺える。
- (3) 練習により、日本語漢字単語の形態・音韻情報の一体化した記憶が形成され定着し、日本語の音韻情報が入力後、形態表象から概念表象へアクセスする経路が優位経路として選定され、練習は、中国語人初中級学習者の心内辞書の変容を促したことが推察できる。
- (4) 練習後、日本語漢字単語音を出力する際、中国語の音韻表象の活性化による負の影響が減衰され日本語の音韻表象の形成が促進されたことが推察できる。

2. 中国人中級学習者の日本語漢字単語の形態・音韻表象の連結強度及び処理過程の変容

実験の結果、次の 6 点が明らかとなった。

- (1) 形態類似性の高い漢字単語は中日 2 言語間で共有されているが、日本語の音韻表象との強い連結がまだ成立されていない可能性が高いことが推察できる。
- (2) 練習後、両課題にとも反応時間の短縮がみられ、日本語漢字単語の形態・音韻表象の連結関係が強化され、処理経路の変容も示唆された。
- (3) 日本語の語彙表象と概念表象を媒介する経路が形成されつつあることが示唆された。

- (4) 中日間の形態類似性は意味アクセスへの促進原因である可能性が高いことが窺える。
- (5) 聴覚的処理時、音韻表象から概念表象へアクセスするルートと、2言語で共有される形態表象を経て意味アクセスされるルート、及び日本語の形態表象を通して意味アクセスされるルート、の3つのルートが形成された可能性が高いことが推察できる。
- (6) 単語シャドーイングは、日本語漢字単語の音韻表象の形成を促進することが考えられるが、形態・音韻類似性の高い単語の誤答率が有意に高いことも示され、中国語の形態・音韻表象の活性化による負の影響が示唆された。

3. 中国人上級学習者の日本語漢字単語の形態・音韻表象の連結強度及び処理過程の変容

実験の結果、次の5点が明らかとなった。

- (1) 漢字単語の形態・音韻表象の連結強度が増大したことが推察できる。
- (2) 音韻類似性の高い漢字単語は、意味処理に促進の影響を及ぼしたことが推察できる。
- (3) 聴覚的処理時に、音韻表象から概念表象へ直接アクセスするルート、或いは2言語間で共有される形態表象を辿るルート、及び中国語の音韻表象の活性化を通して意味アクセスするルート、の3つのルートが形成されたことが推察できる。
- (4) 上級学習者においても、日本語音を出力時に、2言語間の形態・音韻類似性の高い漢字単語の誤答率が有意に高く、中国語による負の影響が示唆された。
- (5) 上級学習者は、中日の形態類似性による負の影響が減衰される度合は初中級、中級学習者ほどではないことが示された。この現象を受け、日本語漢字単語の学習の早い段階から単語シャドーイングを導入すべきことを日本語教育の現場に対して提案した。

第2節 本研究の意義と教育的示唆

本研究で得られた結果から、日本語教育における意義を、以下の3点にまとめる。

- 1. 単語シャドーイングの練習後、初中級学習者の処理過程の変容が顕著であることから、L1の漢字知識を有効に利用できる単語シャドーイングを初中級段階から導入することが重要である。
- 2. 中級学習者や上級学習者においても、単語シャドーイングは日本語漢字単語の音韻情報の内在化を促し、漢字単語の形態・音韻表象の連結度の強化、及び日本語の音韻表象の形成と定着に繋がることを示唆された。中級と上級の学習者においても、日本語漢字単語の学習に単語シャドーイングを取り入れることが大切である。
- 3. 本研究の結果に基づき、3つの異なる習熟度の学習者に対して、中日2言語間で形態・音韻類似性の高い単語を用いた練習単語を段階的に増やし、継続的に単語シャドーイングを行うことを教育的示唆とする。

第3節 今後の課題

本研究の発展課題として、以下の3つが挙げられる。

1. 本研究では、蔡他（2011）や松見他（2012）が中国国内の中級学習者で検証した、語彙判断課題及び読み上げ課題における音韻類似性による促進効果が観察されなかった。その原因を解明すべく、日本留学中の中国人中級学習者の日本語漢字単語の処理過程の検討をさらに進める必要がある。
2. 一旦間違っただけで記憶し定着した「誤答」単語の訂正に関しては、今後、より精緻化した練習法・リハーサル法の考案やその効果の検証が必要である。
3. 単語シャドーイングの持続的効果を保つために、異なる習熟度の学習者に多様化した対応法で復習させながら、新たな練習単語を用いて、継続的に単語シャドーイングを行い、引き続きその効果を検証していく必要がある。

引用文献

- Boukrina, O., & Marian, V. (2006). Integrated phonological processing in bilinguals: Evidence from spoken word recognition. *The 28th Annual Conference of the Cognitive Science Society*, 101-106.
- 蔡 鳳香・松見法男 (2009). 「中国語を母語とする上級日本語学習者における日本語漢字単語の処理過程—同根語と非同根語を用いた言語間プライミング法による検討—」『日本語教育』 141, 14-24.
- 蔡 鳳香・費 曉東・松見法男 (2011). 「中国語を母語とする日本語学習者における日本語漢字単語の処理過程—語彙判断課題と読み上げ課題を用いた検討—」『広島大学日本語教育研究』 21, 55-62
- Dijkstra, T., & Van Heuven, W. J. B. (2002). The architecture of the bilingual word recognition system: From identification to decision. *Bilingualism: Language and Cognition*, 5, 175-197.
- 費 曉東 (2013). 「日本留学中の中国人上級日本語学習者における日本語漢字単語の聴覚的認知—中日 2 言語間の形態・音韻類似性を操作した実験的検討—」『留学生教育』 18, 35-43.
- 費 曉東・松見法男 (2012). 「中国語を母語とする上級日本語学習者における日本語漢字単語の聴覚的認知—中日二言語間の形態・音韻類似性による影響—」『教育学研究ジャーナル』 11, 1-9.
- 門田修平 (2007). 『シャドーイングと音読の科学』, コスモピア
- Kroll, J. F., & Stewart, E. (1994). Category interference in translation and picture naming: Evidence for asymmetric connections between bilingual memory representations. *Journal of Memory and Language*, 33, 149-174.
- Marian, V., & Spivey, M. (2003). Bilingual and monolingual processing of competing lexical items. *Applied Psycholinguistics*, 24, 173-193.
- 松見法男 (2002). 「第二言語の語彙を習得する」海保博之・柏崎秀子（編著）『日本語教育

- のための心理学』第6章 (pp.97-110) , 新曜社
- 松見法男 (2006). 「言語学習と記憶」 縫部義憲(監修)・迫田久美子 (編集) 『講座・日本語教育学 第3巻 言語学習の心理』第3章 第1節 (pp.128-160), スリーエーネットワーク
- 松見法男・蔡 鳳香 (2008). 「中国語を母語とする初級日本語学習者における語彙と概念の連合関係—絵—単語カテゴリー—一致性判断課題を用いた実験的検討—」 『広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部 (文化教育開発関連領域)』 57, 193-197.
- 松見法男・費 曉東・蔡 鳳香 (2012). 「日本語漢字単語の処理過程—中国語を母語とする中級日本語学習者を対象とした実験的検討—」 畑佐一味・畑佐由紀子・百濟正和・清水崇文 (編著) 『第二言語習得研究と言語教育』 第1部論文2 (pp.43-67), くろしお出版
- Potter, M. C., So, K.-F., Von Eckardt, B., & Feldman, L. B. (1984). Lexical and conceptual representation in beginning and proficient bilinguals. *Journal of Verbal Learning and Verbal Behavior*, 23, 23-38.
- Sanderman, G., & Kroll, J. F. (2006). First language activation during second language lexical processing: An investigation of lexical form, meaning, and grammatical class. *Studies in Second Language Acquisition*, 28, 387-422.